市の政策課題と連携した図書館運営

令和２年度
第６期若手職員まちづくり研究チーム

目次

はじめに 1

１. 政策課題と研究の方向性 2

政策課題 2
研究の目的 2
研究の方向性 2
これまでの取組み 2

２. 事業提案 4

①図書館機能を活かした「マルタス」の活用について提案 4
②図書館と庁内各部局と連携した取組についての提案 6
③その他、図書館運営について改善等の提案 7

おわりに 8

はじめに

令和 2 年度、市民生活部内に「生涯学習課」が新設され、生涯学習の拠点施設の一つである「図書館」が教育委員会部局から市長部局へ移管されたことにより、図書館はこれまで以上に庁内各部局と連携した取組や、生涯学習や市民協働との一体的な施策の推進が求められている。

また、令和 3 年 3 月には、市民活動の拠点施設となる「マルタス（市民交流活動センター）」が開館予定である。このマルタスには、開館当初約 7,000 冊の閲覧用図書が準備され、カフェの飲み物を飲みながらの読書など、今までの丸亀市にはなかった一味違った場となる予定であり、マルタスとの連携・活用についても求められる。

本研究では、「市の政策課題と連携した図書館運営について」というテーマのもと、図書館と庁内各部局が連携した取組や図書館機能を活かしたマルタスの活用方法等について、本市の取り組むべき方向性等を提案いたしたい。

１. 政策課題と研究の方向性

政策課題

第 6 期若手職員まちづくり研究チームには、生涯学習課より次の政策課題が提案された。

「市の政策課題と連携した図書館運営について」

①図書館機能を活かした「マルタス」の活用について提案

②図書館と庁内各部局と連携した取組の提案

（場所は図書館の内外を問わず、地域社会の課題解決や図書館のＰＲに繋がる取組）

③その他、図書館運営について改善等の提案

研究の目的

提案された政策課題の解決方法等について調査研究し、これからの図書館運営についての本市の方向性等を提案することを目的とする。

研究の方向性

合計 4 回の会議を行い、本研究を進めるにあたっては、現在本市でも取り組んでいるＳＤＧｓとの関連付けを意識し、ＳＤＧｓのスローガンでもある「誰一人取り残さない」をコンセプトに設定し、提案された政策課題の研究を進めることとした。

これまでの取組み

令和 2 年 10 月 14 日に第 6 期若手職員まちづくり研究チームのメンバーとして任命され、これまでに合計 4 回の会議を行ってきた。会議ではメンバーの持つ図書館のイメージや図書館と連携できそうなこと、政策課題に対する図書館の役割等についての話し合いを行い、今後の方向性や取組み内容についての検討を行った。

＊ＳＤＧｓ(エスディージーズ)…Sustainable Development Goals の略で、2015 年 9 月の国連サミットで採択された 2030 年を期限とする、先進国を含む国際社会全体の 17 の持続可能な開発目標。

1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさも守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナーシップで目標を達成しよう

２.事業提案

①図書館機能を活かした「マルタス」の活用について提案

事業名称

（仮称）みんなで育てる本棚プロジェクト

事業概要

中央図書館において、まちライブラリーのコーナーを設置し、みんなで持ち寄った本で本棚を作っていく(育てていく)事業。また、マルタスに紹介コーナーを設置したり、カフェ機能を活用したお茶会や本の交換会等のイベントを実施したりすることでマルタスとの相互連携も図る

【実施手順】

①みんなで本を持ち寄る

②持ち寄った本には、寄贈者情報及び寄贈者からのメッセージを記入

③次に読んだ人が感想を連ねていく

④定期的に本の交換会やお茶会などのイベントを開催する（マルタスにて実施）

※集まった本の情報や読んだ人の感想は、SNS 等を活用し、見えるカタチで公開する

※評判のよかった本をランキング形式にて発表する

≪まちライブラリーとは？≫

画像引用：まちライブラリーHP「しくみ|まちライブラリーとは？」2021 年 1 月 20 日

https://machi-library.org/what/

事業目的

まちライブラリーのコーナーを活用することで、本を通じてヒトとヒトを繋ぎ、ゆるやかにつながり交流するきっかけづくりを提供することを目的とする。

また、まちづくりの拠点となるマルタスのカフェ機能を活用して相互連携を図り、本を通じた市民同士の交流が進んでいくことで、マルタスが多様な主体（市民、NPO、コミュニティ、企業、大学など）をつなぎ、やがては市民活動がマチナカに広がっていくものと考える。

これらは、ＳＤＧｓの「17　パートナーシップで目標を達成しよう」の取組に繋がり、やがて市民活動が広がっていき市民が活発になり生き生きとしてくることで、労働意識等も向上し「8 働きがいも経済成長も」の達成にも繋がっていくものと考える。

また、定期的に本の交換会などを実施することで、捨てられる本を減らすことにも繋がるため、「12 つくる責任つかう責任」の達成にも繋がるものと考える。

課題・問題点等

・不適切な本の提供を防ぐため、本の検閲体制が必要か
・図書館の本とまちライブラリーの本の区別が利用者には難しく、図書館の蔵書やブックバンクの本と混同する可能性があり、本の管理が困難か
・本を寄贈してもらうことや本の感想を書くこと、メッセージの記入が参加のハードルを上げる可能性あり
・マルタスを活用したイベント等の実施は指定管理者の理解・協力が必要
・マルタスの空き本棚スペースを有効活用した、まちライブラリーコーナーの拡充についても検討の余地あり

②図書館と庁内各部局と連携した取組についての提案

事業名称

（仮称）ＳＤＧｓ推進プロジェクト

事業概要

市内の図書館、移動図書館、各学校図書室、マルタスにＳＤＧｓ関連コーナー（書籍、絵本、児童書など）を設置する。設置にあたっては、人権週間や環境月間などの「〇〇週間」「〇〇月間」などの強化事業と関連付け、相互に事業推進・啓発を行う事業。各図書館を情報の発信拠点として位置付ける。

【実施手順】

①図書館において、各担当課の強化事業の実施時期・内容等を集約する

（各担当課は、図書館からの照会を受け、強化事業とＳＤＧｓとの関連付けを行う）

②図書館において、集約した情報を基に本を選定し、各図書館及び図書室、マルタスで特設コーナーを設置する

（各担当課は、必要に応じて強化事業の概要等の資料を作成し、図書館に提供する）

③各担当課は、強化事業の実施と併せて関連付けしたＳＤＧｓの啓発を行う

（必要に応じて図書館より関連図書を借用し、事業実施に活用する）

事業目的

「〇〇週間」「〇〇月間」などの市が集中して施策を推進・啓発する強化事業とＳＤＧｓを関連付け、そこに図書を利用して分かりやすく紹介することで、市民に地域社会の課題等について興味・関心を持ってもらい市民参画等へ繋げることと、市職員のＳＤＧｓへの意識向上を目的とする。

毎月あるそれぞれの〇〇週間・〇〇月間は、それぞれで複数のＳＤＧｓ開発目標に関連付けが可能であるため、ＳＤＧｓの推進・啓発を行う有効な手段になると考える。

課題・問題点等

・ＳＤＧｓ関連図書の選定、コーナーの入替が頻繁に必要

・ＳＤＧｓ推進に向けた市職員の意識を向上させる仕組みが必要

③その他、図書館運営について改善等の提案

図書館運営についての改善案、あったら便利な機能等について、チーム内で出た意見は以下のとおりであった。中でもあったら便利な機能として、郵送での貸出返却サービスの範囲拡大についての意見が多く出た（コロナ対応にもなる）。

また、各種お知らせなどは広報やHP、Facebookだけではなく、プッシュ通知でリアルタイムに情報を届けられるLINEの活用や、より拡散力のあるTwitterを活用するなど、新たなSNSも積極的に活用して情報発信していくべきであるとの意見も多く出た。

ソフト面の改善等

◆ライトユーザー向け（利用者を増やす施策）

・一部の方を対象に実施している郵送での貸出返却サービスの機能改善及び対象者拡大

→送料等の費用が発生するため運用手順の整理やシステム改修は必要である。これが浸透すれば来館者数は減少とはなるが、コロナ禍において、WEBで貸出予約し、郵送で自宅に届き、返却はポスト投函で出来る方法は有効であると考える。

・LINEやTwitterなどのSNSについても積極的に活用していく

→各種イベント、移動図書館、他自治体との図書連携、新規購入図書やオススメ図書の紹介など、広報やHPだけではなく、より多くの人に知ってもらうためには、SNSを有効活用することが最も効果的であると考える

・病院や老人保健施設など外に出歩けない人向けに、移動図書館の範囲を拡大する

→必要に応じて現在の契約形態を見直してサービス拡大を図る

・マイナンバーカードと図書カードの連携

・子育て世代の利用を促すため、子どもが賑やかに活動できる時間を設ける

・若者の利用を促すため、マンガを常設する

◆ヘビーユーザー向け

・資料をデジタル化し公開（高価な図書、貴重な資料、古い資料など）

ハード面の改善等

・換気のしやすい空間整備

・個室の整備（漫画喫茶のイメージ）

・飲食可能コーナーの整備

・子どもが賑やかに活動できるスペースを設ける

おわりに

研究を進めるにあたって、コロナ禍の中で十分に動くことができなかったり、チーム発足が 10 月で 4 回しか集まれなかったりと十分な時間はなかったが、研究チーム全員の協力もあり、3 つの提案をまとめ、今回報告書という形で一つの成果は出すことができた。

（仮称）みんなで育てる本棚プロジェクトにて紹介した「まちライブラリー」は、本を通じてヒトとヒトを繋ぎ、ゆるやかにつながり交流するきっかけづくりを提供することを目的とするため、図書館やマルタスだけではなく、他の公共施設に広げていくことも有効であると考える。

例として挙げると、現在まるがめボートにおいて、知育玩具を集めた子どものあそび場、公園、カフェ・休憩所を設置する、北広場整備事業を進めているところであるが、多くの子育て世代が集う場所となることが見込まれるため、子どもや子育てに特化したまちライブラリー等を設置し、図書館やマルタスと相互にイベント等を開催して連携を図ることで、相乗効果も生まれ、様々なヒトとヒトとの交流も期待できると考える。

これからの図書館の在り方として、これまでどおりの図書等の提供に加えて、ＳＤＧｓのスローガンでもある「誰一人取り残さない」をキーワードに、図書館が本を通じて人と人が繋がり交流するきっかけづくりの場にもなることを期待し、その中で本報告書が少しでも参考になれば幸いである。

第 6 期若手職員まちづくり研究チーム

広聴広報課	森　望
人権課	糸川　裕子
健康課	伊藤　千夏
生涯学習課	田村　涼
スポーツ推進課	須﨑　由希
建設課	宇佐美　太朗
産業観光課	大岡　諭史
企画戦略課	渕　嵩仁
予防課	小阪　亮平
幼保運営課	佐々木　拓哉